

1 今年度重点的に取り組む目標・課題

幼児期に必要な多くの経験や活動に主体的に関わることができる環境作りと保育の実践

学年重点的目標・計画

年少組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を身に付け集団でのルールを守る ・ 様々な活動から友達との関わりを通して充実感を味わう
年中組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身心ともに健康で友達と関わりながら園生活を楽しむ
年長組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学に向けた質の高い教育を実践する

2 評価項目と取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	基本的な生活習慣を身に付けられるよう個々に応じた援助をし、工夫した環境作りを行う	<p>年少：ポスター等を用いて視覚的に自ら気づき取り組めるよう工夫した。</p> <p>年中：雑になってしまうこともある為、繰り返し声をかけていった。</p> <p>年長：一人ひとりが意識し行うことができた。</p>
2	日々の保育や行事においてこども一人ひとりの取り組みと関わり認める	<p>年少：一人ひとりにあった声かけを行い認めた。</p> <p>年中：声かけを行い認めたこともあり、子ども同士でも認めあえるようになった。</p> <p>年長：褒める保育を心掛け、取り組みを認め関わることができた。</p>
3	十分に身体を動かして遊べる環境作りを構成する	<p>年少：環境づくりは意識し行えたが、もう少しマラソンなど回数を増やせるといい。</p> <p>年中：十分に遊べる環境づくりを行えた。</p> <p>年長：遊びに偏りが出してしまうため、遊びのレパートリーを増やす必要がある。</p>
4	様々な活動で友達とともに過ごすことの喜びを味わうことができるようにする	<p>年少：個々の遊びが多かったが、友達と遊ぶ楽しさを知ることができ友達同士の関わりが増えた。</p> <p>年中：集団遊びが多くなり、友達と過ごす楽しさを味わうことができた。</p> <p>年長：関わりの輪が広がるような遊びを取り入れたことで、いろいろな子と遊べるようになった。</p>

	評価項目	取り組み状況
5	こども達自らが気付いて行動できる環境作りをおこなう	年少：保育者に気づいたことを伝えることはできるが、行動に移すことはまだ難しい。 年中：自ら気づき行動できるようになった。 年長：必要に応じ声を掛けたことで、子ども達同士で考え行動できるようになった。
6	教育の質の向上のために職員間で保育内容を共有することやそれらを踏まえ保育の実践する	年少：学年の中で主担任を変えたり他クラスに見学に行ったり研修ができた。 年中：保育内容の共有はできたが、研修は行えなかった。 年長：就学を意識し行動できるようになった。

3 総合的な評価結果

年少：基本的な生活習慣は、繰り返すことにより身に付けることができた。個々の遊びから集団で遊ぶ楽しさを知ることができた。

年中：日常生活では、慣れから雑になってしまう子が多いため意識し行えるように声掛けを行ったが引き続き声掛けを行う必要がある。友達と関わられるようクラス全員で遊ぶ時間を設けたことで集団遊びを楽しむ姿が見られた。

年長：就学が意識できるような声掛けを行い子ども達が自分で考えて行動できるようになった。また、色々な遊びを取り入れたが遊びに偏りが出たため、遊びのレパートリーを増やす必要がある。保育内容の共有はできたが研修が行えなかった。

4 今後取り組むべき課題

- ・研修は他学年に行けると良い。研修をした際は積極的に反省会をしたり意識を高く持つ。
- ・保育者間の共有は行き違いないようにする。
- ・定期的に全員で身体を動かせる機会を多く設けられると良い。
- ・子ども達の様子に合わせて、遊びのレパートリーを増やすなど環境作りをしていく。
- ・気づいたらすぐ行動できるよう視野を広げる。